



## トラウマの子供たち(下) パレスチナ巡礼(14)

日本は今、高齢化社会。このことが思いもかけないことにも影響を与えている。

先日、県内の十団体のNGOで構成するNGOネットワークやまぐちの会議に参加した時、高齢化問題が話題になった。海外でNGO活動をしている人の高齢化と同時に、それを支援している人の高齢化で会費や寄付金が大幅に減少しているというのだ。

高齢化だけでなく、



施設内のメモリアル・ガーデン

め、年一、二回、スタディ・ツアーをしている。私も一度参加して、寮に泊まったり、民泊もさせてもらった。

次世代を背負う子供たちを育て、かつ現地の人々の自立のために活動しているこのシャンティ山口ですらも、支援会員の高齢化などで活動を少しずつ縮小せざるを得ないと聞いてびびりました。



運動場から教室に戻る子供たち  
II庭にはレモンやオリーブが植えられている

シャンティ山口の活動に比べると私たち夫婦が中心の「ワード・パレスチナ、ありんこちゃん」は小さな小さな活動だが、同じように長く支援して下さった方が高齢で亡くなられたりし、現地への資金援助もわずかな額となつた。そして今回のパレスチナ訪問を機に活動を中止することを考えていた。

金曜は授業はなく、

これは半日滞在してオリーブを搾ったりするアクティビティー・デはそれまで支援の金額ばかりにこだわっていた。もちろん金額も大切だが、それ以上にトラウマの子供たちが世界の十五の団体と連帯しているというところに大きな意味があるように思い始めた。

ふと、トラウマ治療

わすかでも支援活動を続けようという気持ちにさせられた。施設の入り口横のボードには支援している世界各地の十五団体の名前が特